

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して



国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (令和7年度)



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>

- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 薬剤師レジデント制度について
- 5 薬剤師レジデント研修過程の内容
- 7 研修に関する Q&A
- 8 チーム医療に貢献する薬剤師
- 10 研修スケジュール
- 11 薬剤師レジデントの生活
- 12 薬剤業務
- 14 がん専門修練薬剤師の創設
- 16 募集要項 (薬剤師レジデント)
- 18 募集要項 (がん専門修練薬剤師)
- 20 薬剤師レジデントより
- 24 がん専門修練薬剤師より
- 27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来しました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。



設立時の建物



外来診療棟竣工 (昭和53年)



研究棟竣工 (昭和56年)



東病院 (平成4年)



中央病院新棟竣工 (平成10年)

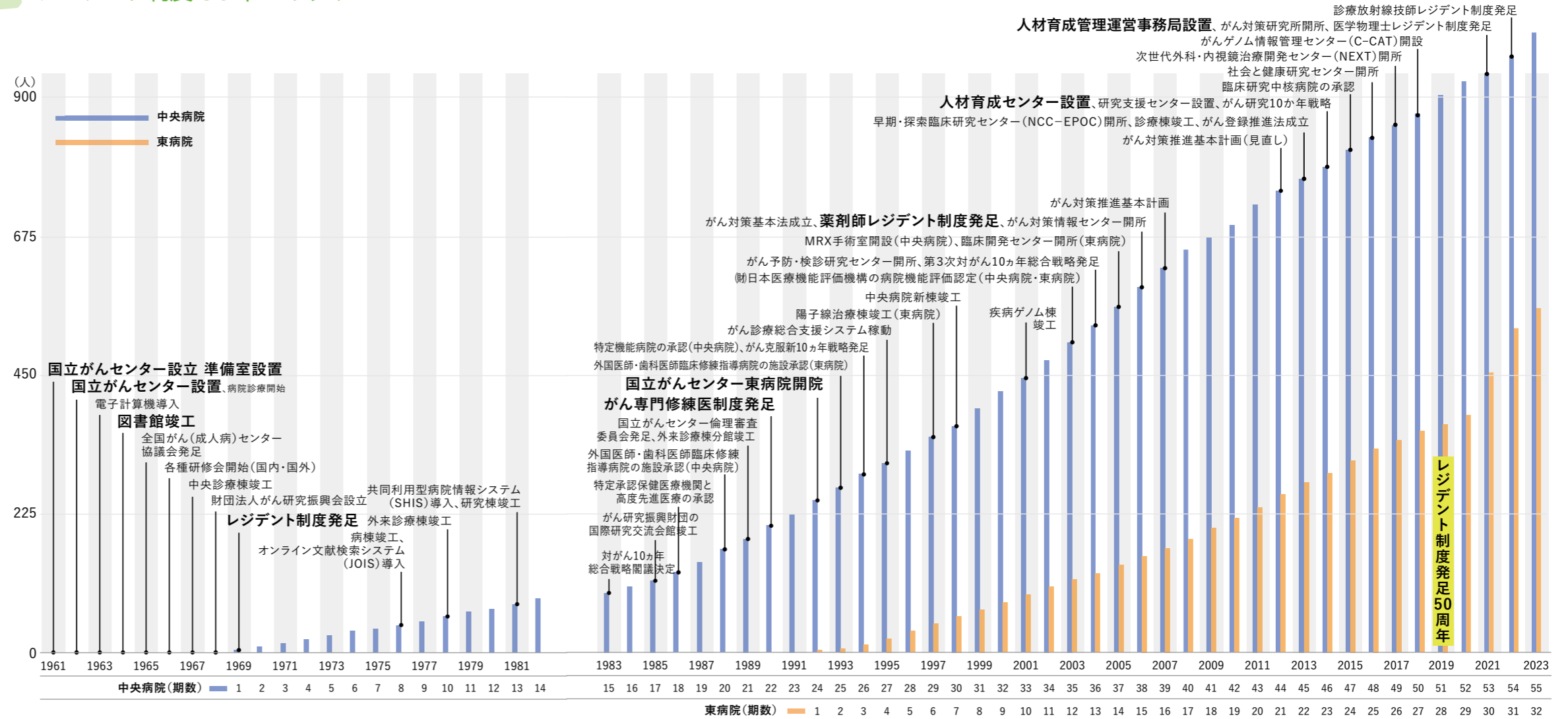


診療棟 (平成25年)



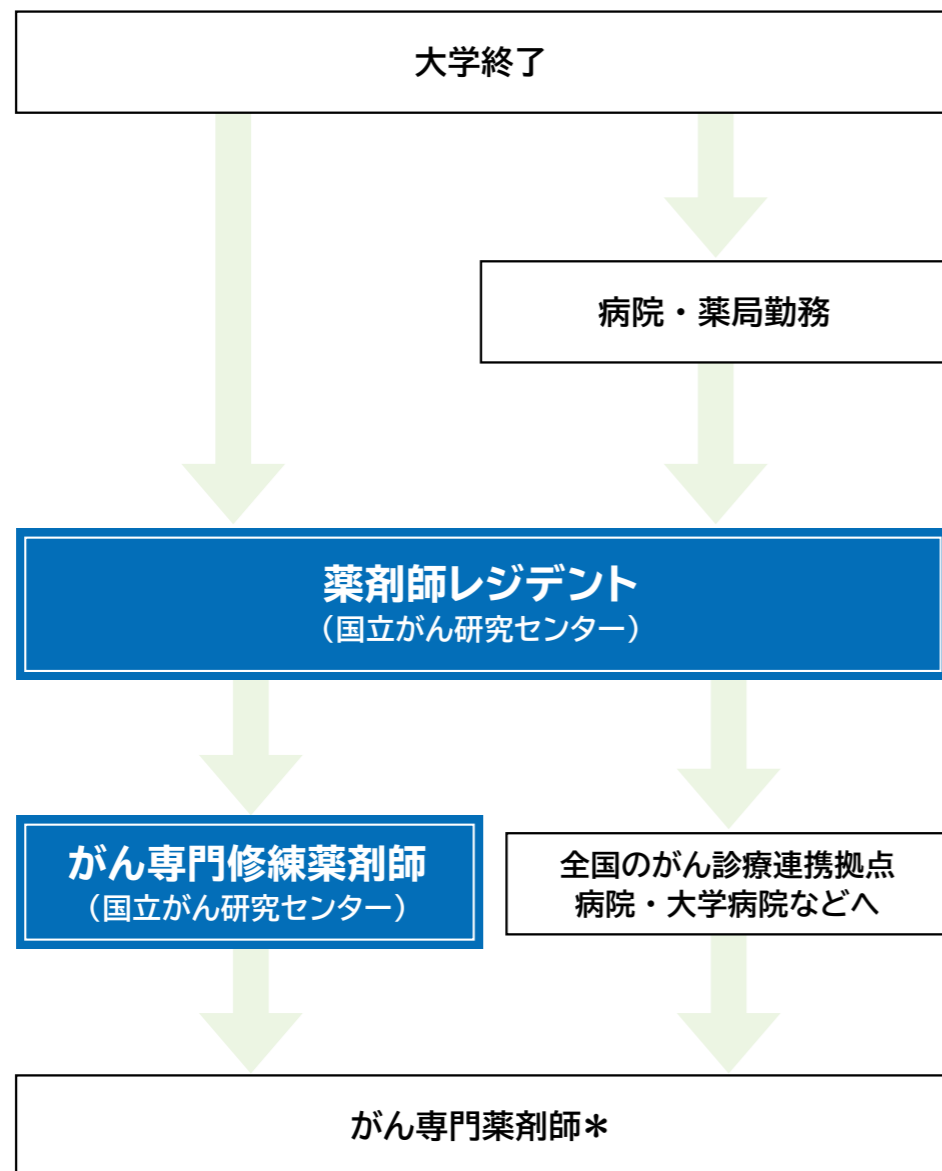
「癌」の文字から「疔」(やまいだれ)を取り除き「品」とし、それを図案化したものです。昭和45(1970)年
シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「(1) 臨床」「(2) 研究」「(3) 教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

レジデント制度50年のあゆみ



薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されると同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で18年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、15期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修，50症例の経験，学会発表または論文発表が必要となります。

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界トップクラスのがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例：消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

研修に関する Q&A

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は令和3年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師(敬称略)	形式
1	2/2(火)	食道癌	腫瘍内科医	WEB
2	2/5(金)	大腸癌	腫瘍内科医	WEB
3	2/8(月)	乳癌	腫瘍内科医	WEB
4	2/10(水)	緩和医療(薬物療法)	腫瘍内科医	WEB
5	2/12(金)	肝・胆・膵癌(化学療法)	腫瘍内科医	WEB
6	2/15(月)	精神腫瘍	腫瘍内科医	WEB
7	2/16(火)	白血病	腫瘍内科医	WEB
8	2/17(水)	泌尿器癌(化学療法)	腫瘍内科医	WEB
9	2/18(木)	胃癌	腫瘍内科医	WEB
10	2/22(月)	婦人科癌	腫瘍内科医	WEB
11	2/24(水)	皮膚腫瘍	皮膚科医	WEB
12	2/25(木)	造血幹細胞移植、GVHD管理	移植医	WEB
13	3/1(月)	肺癌	腫瘍内科医	WEB
14	3/2(火)	脳腫瘍	腫瘍外科医	WEB
15	3/3(水)	悪性リンパ腫	腫瘍内科医	WEB

【講義形式】

ZOOMによるWEBまたは会議室での少人数の対面講義形式+ ZOOMによる講義配信



Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年17期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3年間のカリキュラムとなっています。2年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、2.5ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 薬剤師レジデントの規程に基づき、支給されます。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舍(有料)を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。
(月額) 1年目 240,000円 2年目 250,000円
3年目 260,000円

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は1日200件に昇り、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間100を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には2年間のがん専門訓練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などなんらかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年1回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

薬剤師レジデント・がん専門修練薬剤師



血液／造血幹細胞移植科



消化管内科／頭頸部・食道内科



脳脊髄腫瘍科



腫瘍内科



骨軟部腫瘍科



泌尿器後腹膜腫瘍科



小児腫瘍科



肝胆膵内科



呼吸器内科



緩和ケア

薬剤業務

■ 調剤業務



●入院調剤 ●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



●麻薬の使用法について説明 ●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



●注射薬調剤 ●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



●抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 肝胆膵内科
- 消化管内科
- 通院治療センター
- 呼吸器内科
- 小児腫瘍科
- 緩和医療科
- 骨軟部腫瘍科
- 血液化学療法科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科



■ 医薬品情報管理業務



●医薬品情報の収集・整理 ●治療薬物モニタリング
●情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



●レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



●感染対策チーム：ICT ●褥瘡対策チーム
●栄養管理対策チーム：NST ●外来がん薬物療法患者サポート
●緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



●薬剤師外来 ●外来化学療法ホットライン
●通院治療センター

■ 医療連携



●業連携 ●地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

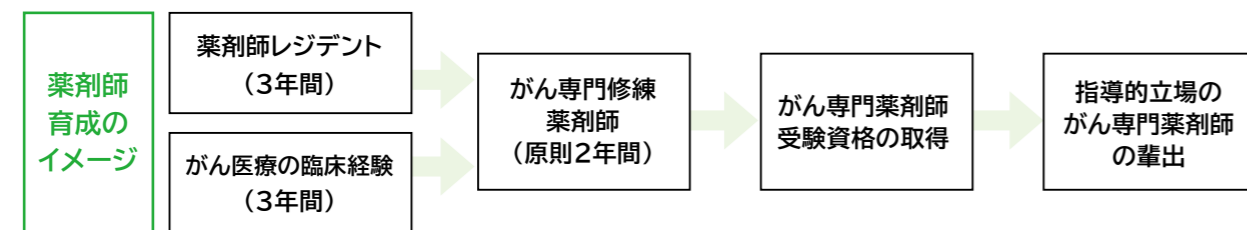
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK／PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK／PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたリバー

ス・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資するrTRを是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践																						
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																						
臨床研究プロトコル作成																						
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																						
臨床研究																						
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																						

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

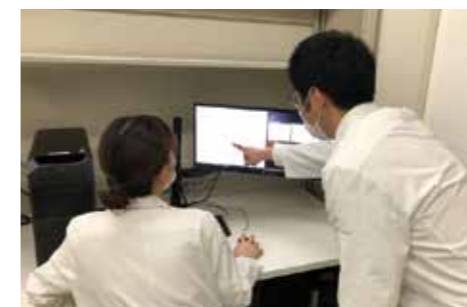
造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間5,000人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる α （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの α が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米ではBMT Pharmacistは難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）



国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目的とした薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に5大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項（中央病院・東病院）・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成27年3月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和7年3月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数（予定）

中央病院 10名
東病院 7名

3. 出願手続

I. 願書受付 中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院
人材育成センター専門教育企画室

II. 締切日 中央病院 令和6年5月1日(水) 必着
東病院 令和6年5月1日(水) 必着

III. 必要書類 a. 願書（所定様式）
b. 薬剤師免許の写し（A4判に縮小）
c. 大学の卒業（見込）証明書または大学院修了書の写し（A4判に縮小）
d. 在職証明書（大学院の在籍証明書も可）
e. 成績証明書（薬学部生のみ）

4. 選抜方法

（中央病院）書類審査、筆記試験および面接試験
（東病院）書類審査、筆記試験および面接試験

5. 選考日時

（中央病院）筆記試験および面接試験（現地）：2024年（令和6年）5月中旬 午前9時から
（東病院）筆記試験および面接試験（現地）：2024年（令和6年）5月中旬 午前9時30分から
*日程が確定次第HPに掲載致します。

6. 選考会場

（中央病院） 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
（東病院） 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

試験日より3週間後頃を予定 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

I. 手当 薬剤師レジデント（常勤職員）の規定に基づき支給されます。
II. 保険 社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
III. 宿舍 （中央病院）単身者用の宿舍（有料）を、空き状況により利用できます。
（東病院）単身者用の宿舍（有料）を、空き状況により利用できます。
IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

（中央病院） 現地開催 : 令和6年3月 8日(金) 13時~16時
（東病院） オンライン開催: 令和6年3月28日(木) 18時~
現地開催 : 令和6年4月10日(水) 14時~

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail（中央病院）：koyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail（東病院）：kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院)・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和7年3月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1)に相当する学識を有する者で、令和7年4月1日時点で原則として3年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院 1名
東病院 1名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
- 【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室
- 【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院
人材育成センター専門教育企画室
- II. 締切日 令和6年10月中旬 必着
- III. 必要書類 a. 願書 (所定様式)
b. 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
c. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 令和6年11月頃
(東病院) 令和6年11月頃

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

令和6年12月初旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員 (がん専門修練薬剤師)

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 がん専門修練薬剤師 (常勤職員) 手当の規定に基づき支給されます。
- II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
- III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 現地開催 : 令和6年3月8日 (金) 13時~16時
(東病院) オンライン開催 : 令和6年3月28日 (木) 18時~
現地開催 : 令和6年4月10日 (水) 14時~

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail (中央病院) : kyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail (東病院) : kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp



国立がん研究センター中央病院
伊藤 恭介 (兵庫県出身)

高度化するがん医療の進歩に伴い、より専門性を活かした薬剤師の能力が求められています。このような社会的要請に応えるため、がん薬物療法等について高度な知識・技術の習得と臨床経験が得られる当院を志望しました。当院のレジデント制度の利点として、1年目は薬剤部内での業務を中心に行うため、基礎的な知識を固めた上で、2年目からは病棟業務で患者さんに適した薬物治療に直接関わることができます。また、高い志を持った同期と、共に高め合いながら成長できる環境も、このレジデント制度の利点だと感じています。レジデントの3年間を通して日々精進し、がん医療の第一線で活躍できる薬剤師になれるよう頑張っていきます。



国立がん研究センター中央病院
原 楓 (神奈川県出身)

私は、祖父が抗がん薬治療を行っていたことをきっかけに、がん治療で闘う患者さんの支えになりたいと考えるようになりました。また、大学5年次の病院実務実習でがん患者さんを担当したことで、がん治療に貢献したいという想いはより強くなりました。

昨今では、2人に1人はがんになると言われています。がん医療の進歩に付随し、薬剤師も高度かつ専門的ながん治療の知識や技能が求められています。当院ではレジデント1年目に基礎をしっかりと身につけることで、より患者さんの目線に立ち、患者さんそれぞれに合わせた薬学的介入を行うことができます。また、臨床試験など高度な質と量を両立した治療を学びながら、研究活動や勉強会などを通して、知見を広げられることも魅力の一つです。☑がん治療の中で患者さんの命に携わることに不安やプレッシャーはありますが、充実した環境のもと、薬剤師として患者さんへ何ができるのかを常に問いかけながら自己研鑽に努めてまいります。



国立がん研究センター中央病院
佐藤 正和 (神奈川県出身)

がん医療に携わる薬剤師になりたいと思ったきっかけは、大学5年次の病院実習で抗がん薬による副作用に苦しむ患者さんに直接関わったことです。抗がん薬は治療域が狭く、副作用が高確率で発現しやすいことが知られています。そのような薬物治療において、治療に伴う苦痛を最小限に抑え、適切な化学療法を実践し、適正かつ安全ながん化学療法を実践できる薬剤師になりたいと思い、当院を志望しました。

当院の薬剤師レジデントでは、がん医療に精通した先生や先輩レジデントの方々のもとで基本的な業務、抗がん剤の混注に必要な手技を習得することができるだけでなく、勉強会や研修、研究活動を通じ、多くのがん治療について知識を身に付けることが出来ます。また、治験業務や高度で質の高いがん医療に触れる機会も多くあります。このような素晴らしい環境下で習得したことを患者さんに還元できるよう、日々精進するとともに、自己研鑽を重ねていきたいと思っています。



国立がん研究センター中央病院
藤本 真理奈 (福岡県出身)

私は、家族が看護師として病院で働く姿をずっと見てきて、幼い頃から、「病院で働く人になる」という目標を持ち続けていました。その中で、就職先として当院を選んだきっかけは、病院実習中に出会ったがん指導薬剤師の先生の姿を目にしたからです。その先生は、国立がん研究センターでのレジデントを経たの

ちに私の実習先である大学病院にてその成果を遺憾なく発揮されており、その姿に憧れたことや国立がん研究センターでの経験についてお聞きしたことが志望のきっかけになりました。

当院は、がん診療・研究のリーディング・ホスピタルとして、高度で質の高いがん医療を提供するべく、全職員が全力で取り組んでいます。そのような環境に実際に身を置くことで、幅広くかつ深く知識と技術を習得できる環境であることを入職して改めて実感しています。レジデント生活を通して、患者さんに寄り添い、支えになれる薬剤師になることを目標に、臨床業務、研究活動に取り組んでまいります。そして、いつか、学生時代の私のように誰かのレジデント志望のきっかけになればと思っています。



国立がん研究センター東病院
古川 洸平 (千葉県出身)

私のがん治療に興味を持ったのは5年次の病院実習のときです。担当していたがん患者さんが抗がん剤の副作用が辛くて、もう治療を止めたいと仰っていました。そこで私は抗がん剤による副作用で苦しまず、治療を継続したいという患者さんの思いにできるだけ寄り添いたいと思い、当院の薬剤師レジデントを希望しました。始めは分からないことだらけで苦戦してしまいました。しかしスタッフの薬剤師や先輩のレジデントの方々からご指導いただいたことで、医師へ処方提案することができ、担当していた患者さんが副作用に苦しまず、無事に治療を終えることができました。またレジデントの生活は大変なことが多く、日常のセントラル業務や診療科業務以外にも、研究や症例発表などできることがたくさんあります。しかし周囲にはがん治療に詳しい薬剤師の先生方がたくさんいますので、その都度ご教授いただき、日々成長を感じることが出来ます。3年間のレジデント生活は非常に充実していると思います。少しでも当院のレジデント制度にご興味があれば、一度見学に足を運んでみてください。皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。



国立がん研究センター東病院
小田 亜貴子 (千葉県出身)

私のがん領域に興味を持ったのは、知人のがん罹患でした。罹患により生活が変わり、痛みともうまく付き合っていく姿を見て、薬剤師として患者さんに貢献したいと考えようになりました。そのためには最先端のがん治療を学ぶことができる環境に身をおきたいと思い、当院にて5年次の病院実習を行いました。実習期間を通して、当院は最先端のがん治療を学ぶことができると実感しただけでなく、さらに深く学んでいきたいと思うようになり、レジデントを志望しました。入職後はセントラル業務だけでなく、1年目の6月から診療科業務もあり、さらに研究や自己研鑽もあります。想像以上に大変な毎日ですが、この環境における3年間だからこそ経験できることばかりだと実感しています。また、患者さんを担当させていただく中で、不明点や不安点は多々ありますが、知識が豊富な指導薬剤師の先生方やレジデントの先輩方にご教授いただけるのは、大変貴重だと思います。このレジデントカリキュラムと置かれている環境が恵まれていることを忘れずに、後悔のない3年間となるように日々精進していきたいです。



国立がん研究センター東病院
青木 楓佳 (群馬県出身)

私が当院を志望した理由は、がん領域に精通する薬剤師となるための環境が整っており、最先端の治療を学べると感じたためです。また医療の発展には新たな知見を広めていく必要があり、日々の業務と並行して研究を行う事が出来るため、レジデントを志望致しました。当院のレジデント制度は3年間のカリキュラムが綿密に組まれております。特に東病院は1年目の6月より薬剤管理指導業務に携わることが出来るのが魅力の一つと感じています。このような早い時期から薬剤管理指導業務を行うことは簡単なことではありません。ですが、認定・専門の資格をお持ちの先生方から抗がん剤治療に関する知識だけでなく、薬剤師として必要な知識を身に付けるためのご指導をいただきながら業務を行っています。レジデント生活は想像以上に大変なこと、思い通りにいかないこともたくさんありますが、同期や先生方に恵まれた環境の中で、3年間を通して目標に向けて日々精進していきます。また、レジデント体験プログラムや見学会も随時行っておりますので、興味のある方、ぜひお待ちしております。



国立がん研究センター東病院
竹森 飛翔 (福島県出身)

私が、当院のレジデントを志望したきっかけは、日本の平均寿命が延びるにあたりがんの罹患患者数の増加、それに伴うがん治療に対する需要が高まることが考えられ、抗がん剤調製に限らず、抗がん剤による副作用の管理、外来がん治療、緩和医療に精通した薬剤師になりたいと思ったからです。またゲノム医療の進歩により各癌種の診断の分類が細分化され、それに伴い薬物療法も多岐にわたっています。患者ごとに最適な薬物療法を提供できる薬剤師になりたい、その目標を達成するためには多くの患者が利用する当院でのレジデント制度が一番理にかなっていると考えたからです。薬剤師はGeneralistにあるべきだ、と考える人もいるかもしれませんが。確かにその考えは間違いではなく薬剤師としてなくてはならない姿であるとも考えます。しかし専門分野に精通しているSpecialistはまだまだ足りていない印象にあります。当院のレジデント制度を利用してがん治療に精通した薬剤師になることで、これからの日本の医療の質向上に貢献することができると思います。我々と共に目の前の患者を一人でも多く救うことができる薬剤師になりたいです。



国立がん研究センター東病院
中村 朱里 (愛媛県出身)

私のがん領域をしっかりと学びたいと思うようになったのは、大学5年次の病院実務実習がきっかけでした。実習で出会ったがん患者さんのほとんどが入院で治療導入され外来で抗がん剤治療を続けていくことが多く、そういった方々が今後の治療や生活に不安を抱え、退院時に薬剤師に相談する姿が印象的でした。しかし当時の私の知識では患者さんの不安を軽減することは難しく、非常にもどかしい思いをしたのを覚えています。そこで私もそういったがん患者さんの力になれる薬剤師になりたいと思い、入院はもちろん外来も充実した環境を持つ当院に入職しました。当院のレジデントカリキュラムでは、セントラル業務をこなしながら各診療科をローテーションするため、1年目のうちから入院患者さんの薬剤指導にも多く携わることができます。業務、自己研鑽、研究とやるべきことが多く毎日大変ではありますが、1年目から薬剤師としてここまで充実した日々を送ることができる環境はなかなかないと思います。がん領域に興味のある方はぜひ見学にお越しください。皆様と一緒に学べる日が来ることを心より楽しみにしております。




国立がん研究センター東病院
内野 里香 (愛知県出身)

私は小学生のときに父をがんで亡くしました。容姿を変え、衰弱していく父を目の当たりにし、とにかく怖くて父の「がん」という病気と真に向き合うことができませんでした。当時のことを後悔してもしきれませんが、今度は薬剤師という立場としてがんと向き合うにはどうしたら良いのか—ということを考えたときに専門的知識の修得はもちろん、がん医療の臨床課題を解決しそれらを臨床に還元していきたいと思い当院を志望しました。当院では2か月の見習い期間を経て、6月からセントラル業務・病棟での患者指導を行い、並行して研究活動を行っていきます。日々の業務において分からないことがあったときに先輩薬剤師に相談しやすいこと、先輩薬剤師のご指導のもと研究活動に取り組めることはとても恵まれた環境であると日々感じています。業務と研究、自己研鑽の両立に苦戦する日々ですがその分やりがいはいは大きいです。がん医療に興味がある皆様とお会いできることを楽しみにしています。

メッセージ がん専門修練薬剤師修了生より




 国立がん研究センター中央病院
高木 麻衣 (9期がん専門修練薬剤師)

私は他院で病院薬剤師として5年勤務しましたが、がん症例の経験不足を感じ当院のがん専門修練薬剤師を志望しました。主に外来の通院治療センターで業務をさせていただきました。外来では1日200名ほどの患者さんが治療を受けており、乳がん・肺がん・胃がん・膵がん・大腸がんなど多様ながん種・レジメンを施行している患者さんと関わり、2年間という短い間でしたが多くの経験を積むことが出来ました。一緒に業務を行う看護師さんから薬剤について質問を受けることも多く、臨床現場で経験を積みながら知識を増やすことができ、2年目には臨床腫瘍学会の外来がん治療認定薬剤師の認定を取得しました。また、患者さんが外来治療を続ける上で薬局薬剤師との連携も重要となっており、トレーシングレポートに注目し研究を立ち上げました。研究の成果を日本臨床腫瘍学会で発表でき良い経験となりました。この経験を活かし、今後もより良い医療を患者さんへ提供できるよう研鑽していきます。

メッセージ シニアレジデントより



 国立がん研究センター東病院
手代木 貴宏 (10期がん専門修練薬剤師)

学術的な成果を残したいという思いから、私はシニアレジデントを志望しました。レジデントとしての3年間で、セントラル業務、病棟業務、診療科配属などを通じて臨床経験を積む機会を得ましたが、臨床での疑問を学術的な成果物として形にすることはできませんでした。それが大変悔しく感じ、研究に多くの時間を割くことを決意しました。シニアレジデントとしては、レジデントとは異なり、研究活動に多くの時間を費やすことができる環境にあります。研究は一人だけで完結するものではないため、人とのつながりが不可欠です。当院では、薬剤師同士だけでなく、医師や研究者など多職種からの温かい助言や厳しい意見を頂いています。現在は、学会発表と論文投稿に向けて、日々努力を重ねています。様々な職種の視点と薬剤師の視点が融合することで、より良い研究が生まれると信じています。このような研究環境に興味のある方は、半日体験や1日体験などにぜひ参加してみてください。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



交通案内

🏠 築地キャンパス

- 🏥 中央病院
- 🏠 研究所
- 🏥 がん対策研究所



〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- ・都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅 A3 番出口から徒歩 1 分
- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅 2 番出口から徒歩 5 分
- ・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅 6 番出口から徒歩 5 分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅 4 番出口から徒歩 10 分

🏠 柏キャンパス

- 🏥 東病院
- 🏥 先端医療開発センター



〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL 04-7133-1111

- ・つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅西口から、東武バス（国立がん研究センター経由）江戸川台駅東口行きまたは柏の葉公園循環行き 6 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 4 分
- ・JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、東武バス国立がん研究センター行き 30 分またはタクシー 20 分
- ・東武野田線 江戸川台駅東口から、東武バス（国立がん研究センター経由）柏の葉キャンパス駅西口行き 10 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 7 分
- ・羽田空港から、東武・京浜急行高速バス柏駅西口行き 1 時間 15 分
- ・常盤自動車道 柏 IC. 千葉方面出口から 国道 16 号線へ 500m 先を右折 5 分

出願に関する照会及び採用願書用紙の請求先

国立がん研究センター 中央病院・東病院 人材育成センター・専門教育企画室専門教育企画係

E-mail (中央病院) : kyoiku-resi@ncc.go.jp

E-mail (東病院) : kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

電話番号 (中央病院) : 03-3542-2511 (内線 2249)

電話番号 (東病院) : 04-7133-1111 (内線 5551)



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>